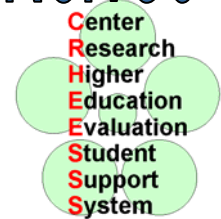


週刊センターニュース

No.136



第136号(2006年11月27日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第3回専門分野別教育開発セミナーのご案内

テーマ: 「科学リテラシーと理系導入教育」

主催: 金沢大学大学教育開発・支援センター

日時: 12月10日(日)13時30分~17時30分

場所: 金沢大学サテライトプラザ3階集会室

(金沢市西町3番丁16番地 金沢市西町教育研修館内 武蔵が辻バス停より徒歩5分)

対象: 大学教員、高校教員、一般

【プログラム】

総合司会: 西山 宣昭(金沢大学大学教育開発・支援センター教授)

13時30分~13時35分 開会挨拶: 青野 透(金沢大学大学教育開発・支援センター長・教授)

13時35分~15時55分 講演(各講演30分、質疑応答5分)

小野寺 彰(北海道大学大学院理学研究院教授)

「北海道大学における理系基礎科目の取り組み 2006年問題に対応して」

伊藤 俊次(金沢大学大学院自然科学研究科教授)「工学部数学補正教育 「数学バックアップ演習」報告」

直江 俊一(金沢大学大学院自然科学研究科教授)「物理学における基礎科目・教養科目の教育内容」

関崎 正夫(金沢大学大学院自然科学研究科教授)「教養教育と学部教育」

16時10分~17時25分 パネルディスカッション 司会: 西山 宣昭

濱崎 正明(石川県立金沢錦丘高等学校教諭) 鹿野 利春(石川県立金沢泉丘高等学校教諭) 上記講演者

17時25分~17時30分

閉会挨拶: 早田 幸政(金沢大学大学教育開発・支援センター副センター長・教授)

【申し込み方法その他】

電子メールまたはファックスにより、「教育開発セミナー申し込み」として、平成18年12月7日(木)までに、氏名(ふりがな)、所属、連絡先(電子メールアドレスまたは電話番号)を明記の上、下記連絡先までお申し込みください。参加費は無料です。

【連絡先】金沢大学 大学教育開発・支援センター 西山宣昭

E-mail: nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp FAX: 076-234-4172

大学教育学会2006年度課題研究集会開催報告

林学長の開会挨拶に始まり、鹿野教育担当理事・副学長の閉会挨拶に終わる - 大学教育学会主催、金沢大学共催の標記課題研究集会が、25日・26日の両日、角間キャンパス文法経済学部棟で開催されました。

国内の大学教育研究の第一線の研究者が集い、アメリカの初年次教育研究の権威がシンポジウムで報告するという、豪華な顔ぶれの課題研究集会となりました。文字通り、今の日本で望むことができる最高の(広義における)FDでした。参加者は、四百名を越えました。開会直後の瀬在幸安・前日本大学総長の基調講演では、A101講義室の367席が埋まり、補助椅子を出すことになりました。

すでにご存知のとおり、専門職大学院のみならず、従来型の大学院でもFDが法的に義務付けられました。教育方法の改善は、少なくとも大学院担当の教員には、必須の事項です。教員の個人評価においても、FD実践が重要な指標となります。もちろん、そうした義務付けとは無関係に、自発的に参加された大学、短期大学、高等専門学校先生方も多く、参加者の所属高等教育機関数が二百数十という数字は、日本の各地から、それぞれに忙しいにもかかわらず、わざわざこの金沢まで、この機会にFDについて学ぼうという意欲をもって、参加された教員が多かったことを意味します。

大学教育学会理事会より本学での開催の打診を受けたときは、当センターが発足して2年ほどしか経っていない昨年夏のことでした。不安もありましたが、ためらわず引き受けたのは、なにより本学にとってFD機運を盛り

上げる好機となると考えたからでした。私自身、法学部教授時代には全く知らなかった授業改善の方法を、この学会で学びました。その成果は、自ら授業で実践するとともに、共同学習会や本紙でも紹介しました。他の教員の方々にも、同じような経験を直接味わって欲しいと考えました。

大学教員はそれぞれに、みずから体得した教育方法を持っています。けれども、その教育方法が完全であることとは必ずしも一致しません。全ての科目においてシラバスに記した教育目標を完全に達成して全ての受講生に「A」評価をつけることができる教員がいたとしても、それが毎年、違う学生相手に続くことは保障の限りではありません。そのとき、他の教員の授業に出れば授業法改善のヒントを得ることが期待できます。

私は、金沢大学教養部赴任直後から、20年近く、総合科目のコーディネーターをしてきました。同じ学期に二つの科目のコーディネートをしたこともあります。そこでは、コーディネーターという立場で他の教員の授業を堂々と見ることができました。学外のこれはという教員にお願いしてきました。この人の授業を自分も聞いてみたい、というのでなければ、学生にも面白い総合科目は企画できるはずはないと考えたからです。そこで私は結果として、いわば“一人FD”をしていたこととなります。学生の中にまじって、他の教員の授業を見る・まわりの学生の反応が手に取るように分かります。独りよがりの教育方法には限界があります。多くの研究者には研究の場面で体験しているはずで、研究者のなり始めに自らの手本となる研究者がいたはず、また、研究が行き詰ったときに、他の研究者の書いたものを読んで目が開かれたという経験を誰もがしているはずで、生まれながらのノーベル賞学者などいないのですから……。研究も教育も同じです。みずからの手法の限界の自覚がなければ、次の段階には進めません。

今回、全国の高等教育機関から参加された教員が、それぞれの大学等に帰り、各大学でのFDにその成果を活かされることとなります。じわじわと、全国の大学等の教育力は着実に上がっていくこととなります。それが学生の学ぶ力の向上につながれば、運動体として学会の開催成果です。学生たちのために教育をしているのであり、どの大学の学生の役にたつのであっても、ひとりの大学教員として喜ぶべきことです。当センターは、金沢大学の教育改革を目指して設立されたセンターですが、同時に、文部科学省によって省令設置されたセンターでもあります。全国のあるいは、北陸地域の高等教育機関における教育力の向上のためにも、可能な限り努力すべきであると考えています。実際に、当センターのような組織をもたない高等教育機関の教職員の方々からの、そうした期待の声も聞こえてきています。当センターの教員が、他の多くの大学での教員の実践について学び、相互に情報交換し、教育手法・教育内容改善の研究をすることが、本学における教育改善に資することは当然のことでもあります。

なお、本学からは、この課題研究集会に、外国語教育研究センターの先生方を中心に教員の方々参加をすることができました。特筆すべきことに、学部生2名、院生2名、さらに職員も1名参加されました。私の知っている人ばかりですが、すべて自発的な参加です。今回の課題研究集会では、石川県や金沢市の助成を得ることができたこともあり、学生1000円、金沢大学教職員1000円という参加費にしました。教員以外、とくに学生の中に、FDの重要性認知度が高まれば、教員も真剣に動かざるをえないときが、金沢大学にもおのずとやってくるようになると思います。

来年度の本学会は、6月9日（土）・10日（日）に東京都小金井市の東京農工大学で大会が、12月1日（土）・2日（日）には龍谷大学深草キャンパスで課題研究集会が開催される予定になっております。近づけば本紙等で広報させていただきます。大学教育学会のHPもご覧になり、学会参加をご検討いただければ幸いです。

最後になりましたが、開催にご協力いただきました方々に心より御礼申し上げます。

まず、企画・実行にあたり、大学教育学会（一般教育学会）の創設時からのメンバーであられる清原岑夫・元本学教授に多大のご協力をいただきました。そもそも先生がおられたからこそ、開催引き受けを当センターも決断できたという事情にありました。開会ご挨拶いただいた林学長、実行委員会委員長をお引き受けいただき細々としたアイデアをだしていただいた鹿野副学長、実行委員としてさまざまな知恵と力を提供していただいた田中一郎教授、懇親会のご挨拶とシンポジストをおつとめいただいた古畑徹共通教育機構長、シンポジストを担当された高田重男教授・山崎光悦教授にはいずれも、お忙しい中、時間をとっていただきました。

会場をお借りしました文法経済学部の各事務担当者、機材を快くお貸しいただいた、共通教育学務担当者、教育学部学務担当者の方々にも御礼申し上げます。とりわけ、学生部学務課の越野衛一係長には、種々のかけがえない貢献をしていただきました。なお、金沢大学生協にも多大のご協力をいただきました。

今回のような充実した内容は学会主催でなければ不可能ですが、今後とも、当センターでは各種のFD企画・運営を通じ、本学の教育改善に努力してまいります。当センターの活動に対して、全学の教職員の方々の一層のご支援・ご協力をお願いする次第です。（文責：大学教育開発・支援センター長 青野 透）